



沖縄盲学校  
寄宿舎便り 第1号  
平成30年4月13日



はじめまして、校長の村吉和枝です。よろしくお願い致します。平成30年度がスタートしました。4月9日には就任式、1学期始業式が行われました。そして、4月10日は入学式があり、幼稚部から高等部専攻科までの23名の新入生を迎え、午後は寄宿舎での入舎式が行われて、寄宿舎での新生活がスタートしました。

私は教員生活のスタートが沖縄盲学校でした。もう30年前のことになります。その頃、生徒だった方々が沖盲職員として私の同僚となっており、頼もしく感じています。もちろん、私は何度も舎監で寄宿舎に泊まりました。学校とは少し違い、リラックスしていて、会話が弾んだり、自分らしさを思いっきり出している印象があります。学校と寄宿舎のメリハリができていて家庭的でとても素晴らしいことだと思います。寄宿舎での生活では、小学部生から専攻科の成人の方まで様々な年齢層の方々が、まさに1つ屋根の下で寝食を共にすることとなります。ここで生活する皆さんが和気あいあいと一つの家族となっていることを感じることができます。まさにこの1年間は「われら寄宿舎家族」(ファミリー・兄弟姉妹)と思って、学校での嬉しい出来事や楽しいことがあった時には、その喜びを共有してください。しかし、時には学校では、先生に叱られたり、友だちとケンカしたりと、淋しい気持ちになったり、悲しい気持ちになったりすることもあるでしょう。そのような時、舎生同士でその気持ちを共有し合い、心をほぐすこともできますし、場合によっては、寄宿舎にいる先生方と悩みを相談し解決の糸口を見つけることもできるのです。寄宿舎で一緒に生活する仲間がいるからこそ、いろいろな学習体験での喜びを分かち合い、また様々な試練をも乗り越えていけると思います。

寄宿舎では、楽しい行事も数多く計画されています。「親睦会」「バーベキュー会」「夕涼み会」「感謝会」「焼きいも会」など、私もとても楽しみにしています。一人一人が主体的に参加して舎生活をエンジョイしてほしいと思います。また、寄宿舎の生活が充実するために「舎友会活動」もあり、舎生の自主生活の向上を高め、豊かな寄宿舎生活を通して立派な社会人としての人格を育てることを目標とする、自主的な組織です。舎友会の役員が中心なり、先ほど紹介した行事等を運営していきます。他にも、サークル活動やたけのこ会の活動もありますので、食事と睡眠をしっかりと取り、身体の健康を第一に、そして「舎生同士の絆と家族や先生方への感謝の気持ちを大切に！」充実した寄宿舎生活になるよう、楽しみながら過ごしてほしいと思います。

最後になりますが、保護者の皆様へのご願いです。週末に帰宅する際には、学校や寄宿舎でことを話題にして、コミュニケーションを図ってほしいと思います。そして、ご家庭でゆっくりと家族と過ごし、週明けには、また元気に登校させて下さい。よろしくお願い致します。



今年度、寮務主任になりました高等部普通科の末吉浩子です。寄宿舎生が学校と寄宿舎の両方で充実した時間を過ごせるよう、学部との連携を図りながら寄宿舎職員とともに指導や支援の方法を考えていきたいと思っています。1年間宜しくお願いします。

「見えない」「見えにくい」ということは生活や学習に大きく影響しますが、視覚以外の感覚や、視覚補助具の活用による生活や学習の方法がいろいろあります。舎生のみなさんは「こんなことができるようになりたい」という具体的な目標を持って、方法を工夫しながら根気強く取り組んでほしいと思います。寄宿舎には楽しい行事がありますが、イベントのある「特別な日」よりはるかに多い「何でもない日」こそ、確実な力を身につけるチャンスです。学習や練習の成果は一朝一夕に得られるものではありませんが、努力を重ねた先には、必ず身についた力を実感する時が来ます。一日一日を大切に過ごしましょう。

「こんなことに挑戦してみたい!」という意欲的な言葉や「練習してこんなことができるようになったよ!」という嬉しい報告が毎日聞こえますように。希望の広場が名前の通り希望に満ちた会話の場所になることを願っています。一緒に頑張りましょう。